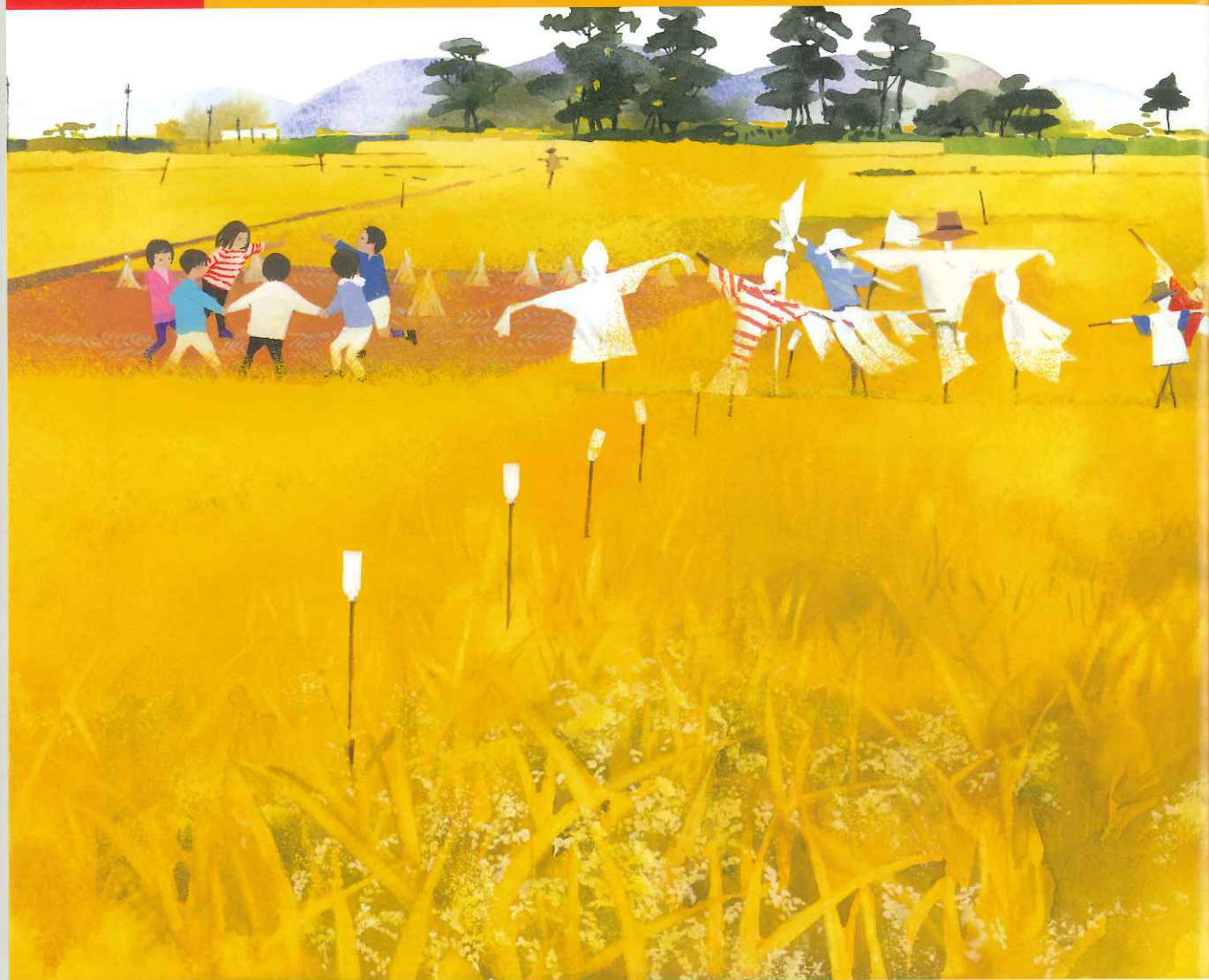


10  
令和2年

心の生涯学習誌  
れいろう



〈れいろうカレッジ〉(今月のテーマ)

# 年を重ねて ますます魅力的に

平尾賢弘

モラロジー研究所 生涯学習講師

安田諒平

元・開星高等学校野球部主将

『れいろう』 限定1000部

オリジナルカレンダー

予約受付中 (詳細はP63)

# 思春期 の処方箋

10



あいざわ たつき  
花まる学習会事業部長 相澤 樹

昭和53(1978)年、千葉県生まれ。子どもの行動の背景を見抜く観察眼を武器に、的確な課題の設定と細やかな指導で保護者から大きな信頼を集め続けている。幼児期の生活習慣の重要性を分かりやすく説く講演「あと伸びする子の家庭の習慣」は全国各地の幼稚園・小学校や企業から好評を博す。共著に『あと伸びする子はこんな家で育つ』(大和書房)、著書に『60点でも伸びる子、90点なのに伸び悩む子』(あさ出版)など。

反抗し、秘密を持ち、葛藤で心をヒリヒリさせている思春期の子どもたち。この時期の接し方について悩むすべてのお父さんお母さんに、「花まる学習会」の講師たちが心の処方箋をお届けします。

## その結果を、子どもは失敗とは思っていないかもしれません。 「経験は糧になる」と応援を！」

に、「いいところを見せたい、応援されたい！好きになってほしい！」という、思春期の男子らしい邪な考えで、いつも以上の力を発揮したことが思い出されます。

誰に向けて発せられたかも分からない、彼女の「頑張れ〜！」という声(もしかしたらその声すら空耳だったのかもかもしれません)。当時はなんの疑いもなく「やった！僕を応援してくれている」と思ったものです。そして、自分史上もっとも輝いた瞬間といっても過言ではない、一〇〇〇メートル走で校内三位という勲章を手に入れました。

誰かによく見られたい、かっこいいと思われたらいい、いささか不純な動機でもエネルギーに変えられるという好例です。副産物として、「自分は長距離走が得意である」と一つの武器に自信を持てたことも大きかったかもしれません。いわゆる、成功体験です。

### 自分では失敗とは思っていない

多くの場合、チャレンジの先には結

果があり、その結果を人に委ねざるを得ないことがあります。

ただ、望んだ結果ではなかったとしても、本人にはチャレンジの過程が充実したものであった場合があります。あるいは、「これでは結果を出すには足りないだろう」と、結果に手が届かないことを感覚的に悟ったとき、子どもは意外とその現実を納得して受け止めるものです。そして、多少の苦しさはあるものの、引きずることなく次のステージに向かっていく様子が見受けられます。子どもが自己解決できているうちは心配ありません。「失敗だ」なんて自身では思いもしないことのほうが圧倒的に多いと思います。こうした苦い経験が学びになり、次のチャレンジにつながる糧になるのです。

### 大人がかけべき言葉

一方、大きなダメージを与えるのは周囲の大人の態度です。大人が結果を残念に思いすぎてしまい、本人以上に引きずったり、本人しか分かりえないはずの過程に対して、ネガティブな言

### 思春期は評価が気になる

小学校の高学年以降、いわゆる思春期に入ると、自身が他者から評価を受けるという局面が増えてきます。

ひとりで他者からの評価といっても多岐にわたります。例えば、受験のように厳然と合否が分かれるような厳しくも客観的な評価もあります。部活動などで同じ目標に向かう仲間とポジションを争い、最終的には監督やコーチから主力の選手に選ばれる・選ばれないということも評価になるでしょう。テストの点数や通知表も自分が測られていることを感じやすい評価です。また、「異性から自分はどう見られているのだろう」とか……。

思春期は、とかく人の目や評価を気にするようになり、人の好みに合わせようとする傾向が見られます。それは決して悪いことばかりではなく、他者からの評価を気にすることがいい方向に働いたときは、自分の限界を超えるパワーにつながることもあります。

私も小学六年生のときの運動会で、思春期特有のパワーを発揮しました。片思いしていた同じクラスの女の子

葉を投げかけたりしていませんか。

大人からは子どもの至らない点が顕著に見えます。結果につながることを予想される最短距離を通らない子どもを見て、「こうすればいいのに」と、歯がゆく思うこともあります。でも、思うような結果が出なかったとき、チャレンジそのものが失敗だったかは周囲が決めることではないのです。

思春期以降で何か壁にぶつかったとき、立ち直るのに時間がかかるのは「自分はダメなんだ」という暗示をかけてしまう子です。つまり、自信を著しく失ってしまった子。人にどう思われるのかを気にするあまり、チャレンジの幅を狭めて、自分の限界を超えないように調整することを覚えてしまいます。

可能性にあふれる思春期こそ、多くの挑戦と経験を積んでほしいもの。「結果がよくなかったから失敗」ではなく「その経験が糧になる」という言葉をかけ続け、何度も挑戦を繰り返す姿勢そのものを応援してあげてほしいと願っています。

